

■ 市長から市民のみなさんへ

市長 白井博文



■ 大変な半月でした

7月13日、全国市長会（東京）の経済部会で「山陽小野田市の産業観光～地元で生きる産業遺産～」と題し、産業観光の事例紹介として講演をしてきました。パワーポイント(映像)の方は随行した課長補佐にお願いしました。来場者は各市の市長・随行者・全国市長会の事務局員など約80名。講演と映像の二人の息が合い、出来映えはまずまずでした。午後の別の協議会の席で、本市の産業観光への取組みについて、褒めてくれる市長もいました。

本市をしっかりとPRしてきましたが、結果は果たしていかん。市民のみなさんも、ぜひ一度「産業観光バスツアー」に参加してみたいかがでしょうか。きっとふるさとを再発見されることと思います。市役所の観光振興係までお電話をください。

7月15日早朝、上流で局地的な豪雨に見舞われ、厚狭川が氾濫しました。特に鴨橋付近の



▲冠水した厚狭駅前商店街

大洪水で、天満町、千町を中心に厚狭全域に浸水が拡がり、住宅の半壊約10戸、床上浸水約500戸、床下浸水約400戸という、この地域がかって経験したことのない大水害になりました。2日後、水は引きましたが、濁流は被災地に大きな爪痕を残しました。

災害復旧には、被災地のみなさんのご苦勞はもとより、全国から駆け付けてくれた市民や学生ボランティアのみなさん、連日200名を超えた県や各市の職員ボランティアのみなさん、県下各地から何度も水を運んでくれた各市の給水車、60名体制で全戸を巡回・消毒してくれた県や各市の保健所のみなさん、それに、派遣



▲ごみの搬出をするボランティアのみなさん

要請に直ちにに応じてくれた自衛隊や、ボランティアセンターを立ち上げた地元の社会福祉協議会

の協力がありました。市役所も当然のことながら全職員が総力戦でがんばりました。

お陰さまで4日目には水道が復旧し、家の中の片づけ、水害で出たごみの搬出も順調に進み、道路の両脇に山積みされていたごみも、災害後の12、13日目には路上からほぼ姿を消しました。ご協力いただいた方々に、心から感謝申し上げます。

被災された方が元の落ち着いた生活に戻るには、もう少し時間がかかると思いますが、行政としては、できる限りの支援を続けるつもりです。何かあれば何なりと、市役所にご相談して下さるようお願いします。

対話の日

8月19日(木) 19:00～
緑ヶ原団地自治会館